

技術（性能）評価書

飛鳥建設株式会社
代表取締役社長 乗 京 正 弘 様
東亜建設工業株式会社
代表取締役社長 秋 山 優 樹 様

一般社団法人 建築研究振興協会
会 長 梶 田 吉 弘



平成 30 年 11 月 29 日付で依頼がありました「ブラストキー工法における設計施工指針の技術性能評価」について、当協会内に設置した技術（性能）評価委員会（委員長：松崎育弘東京理科大学名誉教授）において審査した結果、別紙に示す技術（性能）評価報告書のとおり、本工法はブラストキーを用いてコンクリートやモルタル等の接合面同士に作用するせん断力を適切に伝達するための接合工法であると評価します。

記

1. 件 名

ブラストキー工法における設計施工指針の技術性能評価

2. 技術（性能）評価事項

評価対象となる「ブラストキー工法」の設計・施工指針に示される接合面の設計施工法の適用範囲、設計法、施工法、施工品質管理等の方法に関する妥当性。

3. 評価委員

以下の委員により、評価委員会を設置し本技術の性能評価を行った。

ブラストキー工法における設計施工指針評価委員会

委員長：松崎 育弘 工学博士 東京理科大学名誉教授

委員：秋山 友昭 株式会社東京ソイルリサーチ 執行役員

以 上

技術（性能）評価報告書

ブラストキー工法における設計施工指針評価委員会
委員長 松 崎 育 弘

I. 技術（性能）評価依頼の概要

1. 申請者：飛島建設株式会社

代表取締役社長 乗 京 正 弘

東亜建設工業株式会社

代表取締役社長 秋 山 優 樹

2. 件 名：ブラストキー工法における設計施工指針の技術性能評価

3. 技術の概要：

チップング工法に代わる低騒音、低振動、低粉塵型の工法として開発されたブラストキー工法について、「ブラストキー工法」の設計・施工指針に示される設計施工法の適用範囲、設計法、施工法、施工品質管理等の方法は妥当であると評価する。

4. 技術評価事項

ブラストキー工法の設計施工法の適用範囲、設計法、施工法、施工品質管理等の方法に関する妥当性。

5. 提出資料

- 1) ブラストキー工法 設計・施工指針（付録、付表、説明資料を含む）

II. 検討方法

一般社団法人 建築研究振興協会内に以下の委員からなる技術（性能）評価委員会を設置し、提出資料に基づき技術評価依頼項目について、その妥当性を検討した。

委員長：松 崎 育 弘 工学博士 東京理科大学名誉教授

委員：秋 山 友 昭 株式会社東京ソイルリサーチ 執行役員

Ⅲ. 技術（性能）評価

評価対象となる「ブラストキー工法」の設計・施工指針に示されるブラストキー工法の適用範囲、設計法、施工法、施工品質管理等の方法に関して妥当であると評価する。

Ⅳ. 技術（性能）評価の内容

1. 適用範囲

本指針は、チップング工法に代わる低騒音、低振動、低粉塵型の工法として開発されたブラストキー工法を用いてコンクリートやモルタル等の接合面同士に作用するせん断力を伝達させるための接合工法における、接合面の設計施工法の適用範囲、使用材料、設計法、施工法、施工品質管理等に適用する。

2. 使用材料

ブラストキー工法に使用する材料は、JIS 規格に適合した材料、または建築基準法に基づき国土交通大臣の認定を取得した材料、もしくは本指針第 2 章に記載された規定に従う材料とする。

3. ブラストキー工法の設計法

ブラストキー工法を適用する接合面の設計は、接合面の必要せん断力に対する設計もしくは、仕様規定による設計のどちらかを選択する。

(1) 必要せん断力に対する設計

(2) 仕様規定による設計

① チップング工法をブラストキー工法に置換する設計の場合

② 増し打ち壁の壁面間の接合面の設計の場合

4. 施工法

ブラストキーの施工は、専用工具を用いるものでありチップング工法とは作業内容が異なる。また、施工深さ等の仕上がりおよびグラウトまたはコンクリートの密実な充填が耐力に大きく影響するため、本指針の第 4 章に示す施工方法に則り施工を行う。

5. 施工品質管理

施工品質を確保するため、ブラストキーの施工管理者および施工者は技術性能評価取得会社が実施する技術講習を修了した者とし、1 日の施工に対して規定の数量を測定することとする。

以 上